

- 宮古島市は、平成21年度にオクラ産地協議会を設立し、生産者・作付面積を伸ばし、平成25年度に拠点産地に認定されたが、**栽培技術や単収の農家間格差が大きく、単収の高位平準化や新規生産者への支援が課題。**
- このため農業改良普及課では、**産地の現状・課題を整理し、実証ほの設置や技術支援を強化**するとともに、**新規就農者の育成支援**に取り組んだ。
- その結果、**単収1.8倍、出荷量2.5倍**に増加するとともに、**品質の向上、産地力の強化、新規就農者の育成**につながった。

具体的な成果

普及指導員の活動

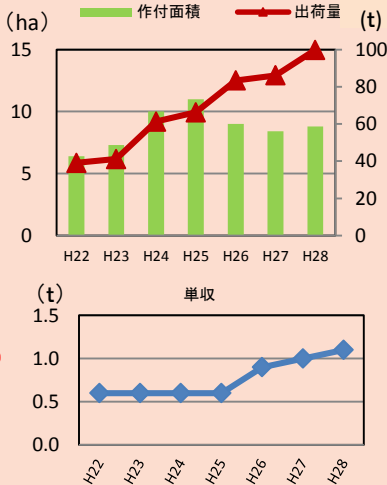
1 オクラ出荷量等の増加

■栽培技術が向上し、単収・出荷量等が増加傾向であり、農家の収益が向上 (H22→H28)

①作付面積  
6ha → 9ha

②出荷量  
36t → 100t

③単収(10aあたり)  
0.6t → 1.1t



2 品質及び産地力の向上

■県内の品評会で品質の高さや産地活動が評価

①野菜品評会  
銅賞2人

②野菜産地活動表彰  
1回(H29)



3 新規就農者等の育成支援

■栽培講習会や各種講座、現地検討会等による実践的な栽培技術の向上  
■関係機関と連携した就農相談から就農定着までの支援体制の確立 (H22→H28)

①オクラ栽培農家数(JA専門部会)  
60人 → 111人

平成22～29年度

■県関係機関・JAとの連携により、は**栽培講習会(春作・秋作)・現地検討会の内容を充実。**  
■**土壌分析結果に基づく細かな施肥指導の実施。**

平成22年

■調査研究により、**経営概況や経営類型等の実態調査を実施し、現状及び課題を整理。**

平成22～29年度

■トンネル等を活用した早出し栽培や品種等の実証ほを設置し、**栽培技術の向上及び長期収穫を目指して指導。**

平成26～29年

■**新規就農サポート講座**に加え、就農5年以内の生産農家を対象とした**就農ステップアップ講座(講習会、現地検討会)**を開催し、就農定着に向けて支援。

普及指導員だからできたこと

・専門技術を持ち、研究機関やJA等との橋渡しができる普及指導員だからこそ、**地域としての課題を整理し、方向性を一つにして連携した栽培技術指導により単収向上を図ることができた。**

・日頃から連携しているJA、研究機関指導農業士等の**関係者を結びつけ、新規就農者を育成するための支援体制を構築することができた。**

## 宮古島市におけるオクラ産地の育成・強化

活動期間：平成22年度～（継続中）

### 1. 取組の背景

宮古島市は、平成21年度にオクラ産地協議会を設立し、生産者・作付面積を伸ばし、平成25年度に拠点産地に認定されたが、栽培技術や単収の農家間格差が大きく、単収の高位平準化や新規生産者等への支援が求められていた。

### 2. 活動内容（詳細）

農業改良普及課では、関係機関と連携して産地の現状・課題を整理し、実証ほの設置や技術支援を強化するとともに、新規就農者の育成支援に取り組んだ。

（平成22～29年度）

県関係機関（農業研究センター、病害虫防除技術センター）やJAとの連携により、栽培講習会・現地検討会の内容を充実させるとともに、土壌分析結果に基づいた土づくりや基肥・追肥の施用等細かな指導を実施した。

（平成22年度）

調査研究により、経営概況や経営類型等の実態調査を行った。その結果、オクラは収穫・選別作業が毎日あるためか平均栽培面積が小さく、この品目のみを大面積で栽培するのではなく、さとうきびやかぼちゃといった比較的大面積で栽培する品目や小面積でも高い収益が得られるインゲンやマンゴー等と組み合わせられて栽培されている品目であり、少量多品目栽培の一品目として栽培される傾向があることがわかった。

（平成22～29年度）

簡易トンネルを活用した早出し栽培の実証ほの設置や防風ネットによる防風効果を実証した。また、品種特性の確認や秋植え切り戻し栽培の可能性の検証、一部地域で問題となっている酸性土壌の改良等に関する展示ほを設置するとともに、苗立枯れ病の病害診断及び切り戻しのタイミング等について指導し、地域の栽培技術の向上および長期収穫を目指した。

（平成26～29年度）

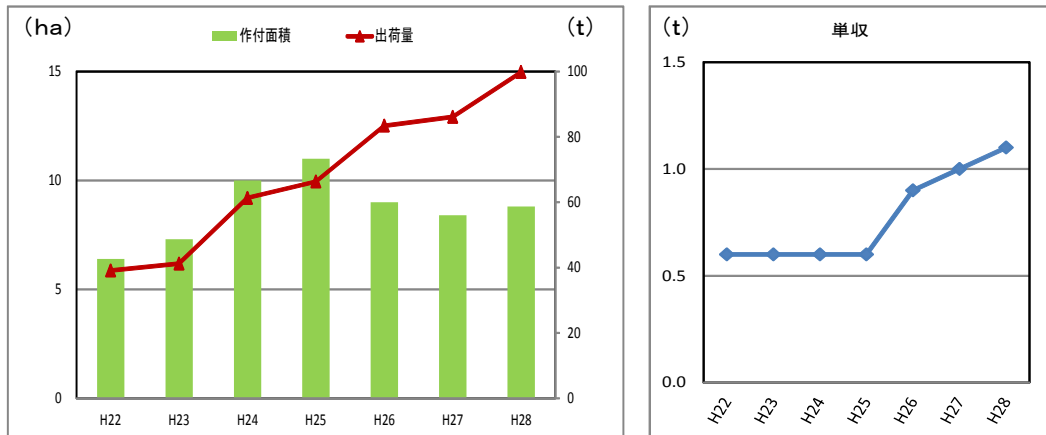
宮古地区農でグジョブ推進会議及び農業改良普及課が主催する就農希望者や就農3年以内の新規就農者を対象とした新規就農サポート講座や、就農5年以内の新期就農者を対象とした就農ステップアップ講座（講習会、現地検討会）を積極的に開催し、栽培技術及び経営管理の向上に向けた支援の充実を図った。特に、就農ステップアップ講座については、指導農業士等の協力を受け、現地指導の強化に取り組んだ。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1 オクラ出荷量等の増加

栽培技術の向上及び長期収穫により、単収・出荷量等は増加傾向であり、農家の収益向上につながった。

作付面積は、平成22年度の6haから平成28年度には9ha、出荷量（JAオクラ専門部会）は平成22年度の36tから平成28年度には100t、単収は0.6t/10aから平成28年度には1.1t/10aと大幅に伸びた。



#### 2 品質及び産地力の向上

毎年2月に開催される「おきなわ花と食のフェスティバル」の野菜品評会においては、早出しの産地として、色のりや形状、揃い等の品質の高さが評価され、平成26年度、平成28年度に銅賞（各1人）を受賞している。また、平成29年度にはJAオクラ生産部会の活動が評価され、野菜産地活動表彰を受けた。



#### 3 新規就農者及び新規栽培者の育成支援

栽培講習会や各種講座、現地検討会等により、実践的な栽培技術の向上につながった。また、早出し栽培のためのトンネル資材や台風対策のための防風ネットについては、展示ほ設置をきっかけにして、補助事業による整備につなげることができた。また、市町村等関係機関との新規就農支援のための連携を強化することで、就農相談から就農定着までの支援体制の確立することができた。

これにより栽培農家数（JAオクラ専門部会）は、平成22年度の60人から平成28年度には111人に増加した。

このような取組みの結果、単収1.8倍、出荷量2.5倍に増加するとともに、品質の向上、産地力の強化、新規就農者の育成につながった。

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(JA 営農指導員A氏)

早出し栽培実証ほの設置、苗立枯れ病の病害診断及び追肥や切り戻しのタイミング等について、講習会や現地検討会で連携して指導することができ、単収向上に繋がった。

宮古地域では関係機関と農家の連携がうまく取れているので、今後もその連携を活かして新規就農者支援、農家への技術支援を行ってほしい。

(指導農業士B氏)

宮古島市は、農家、行政、普及機関、研究機関、JA、農業委員会等の連携が取れている方だと思う。新期就農者への技術指導やアドバイス等についても、可能なことは協力していきたい。今後も、オクラの生産振興に努めて、産地全体としてレベルアップしていきたい。

#### 5. 普及指導員のコメント

(農業改良普及課・農業技術班長)

専門技術を持ち、農業研究センターや病虫害防除技術センター、JA、資材メーカー等との橋渡しができる普及指導員だからこそ、地域としての課題を整理し、方向性を一つにして関係機関が連携した栽培技術指導により単収向上を図ることができた。

(農業改良普及課・普及企画班長)

日頃から連携している農業士、市町村、JA、研究機関等の関係者と新期就農者を結びつけ、新規就農に関する支援体制を構築することができた。

特に、新規就農者の副産品目としてオクラの栽培が多いことから、主要品目を含めた栽培技術及び経営管理能力の向上を図るため、栽培講習会、農業経営講座、現地検討会を重点的に実施するとともに、JA オクラ専門部会の講習会等にも積極的に参加を促したことが成果につながった。

#### 6. 現状・今後の展開等

今後も引き続き、関係機関との連携を強化して、技術力向上と経営安定を図り、オクラ産地の育成・強化に努める。

また、新規就農者については、指導農業士等の協力を得ながら、就農定着に向けて支援を継続する。